図書館だより

2019年
10月号

2019 年 10 月 4 日発行

10 月に入っても最高気温が 30 度近い日が続いていましたが、来週にはようやく長袖の出番がやってきます。湿度も低く過ごしやすい秋には、散策に出かけてみましょう。都内の小金井公園や浜離宮恩賜庭園などではこれからコスモスが見頃を迎えるようです。一面に広がる花畑で綺麗な景色をカメラにおさめてくるのもいいですね。

今日からは恩田陸さん原作の映画『蜜蜂と遠雷』の公開が始まります。史上初の直木賞と本屋大賞のW受賞を果たした本作は、ピアノコンクールに挑む4人のピアニストたちの熱い思いや苦悩が描かれています。美しい音楽があふれ出してくるのを感じられる芸術の秋、読書の秋にぴったりの本です。その他にも9月には伊坂幸太郎さんの『アイネクライネナハトムジーク』、11月には平野啓一郎さんの『マチネの終わりに』が公開となります。原作を読むことで、映画もさらに楽しめるはず。

＊写真を撮るのがもっと上手くなる＊

743-ヤ 『カメラ1年生 iPhone・スマホ写真編』 矢島 直美 ‖ 著 インプレス

性能が年々進化し、スマートフォンのカメラでも鮮明に写真を撮ることができるようになりました。気軽に使えるから、料理や風景、友だちの姿など、日常の色々なシーンでの撮影に便利ですが、後で見返すとたくさん撮ったわりに、「今ひとつな写真が多い…」と悩みを抱える人はいませんか。

iPhone・スマートフォンで撮影をする時に覚えておきたいコツが満載です。構図をちょっと変えたり、背景まで気を配ったり、光に気をつけたり、ピンボケを生かしたり、色々な工夫を試して、写真の出来栄えを比べてみてください。

＊日本語に訳すと『小さな夜の曲』＊

913.6-イ 『アイネクライネナハトムジーク』 伊坂 幸太郎 ‖ 著 幻冬舎

上手くいくことばかりではない人生。ある日突然奥さんが出ていってしまったり、激高したお客の苦情が止まらなくなったり、世界チャンピオンになったばかりでベルトを奪われてしまったり、ソリの合わなかったクラスメイトに再会してしまったり、いつどんな災難が身に降りかかってくるかわかりません。でも、それと同じくらい心温まる奇跡が私たちの日常には潜んでいます。それは運転免許センターでだったり、リングの上でだったり、駐輪場でだったり、思いもよらないところで起きているのです。これはそんな奇跡が集まった連絡短編集です。どんな奇跡を目撃することになるのでしょうか。

おにぎりアクション2019

おにぎりの写真1投稿につき、100円が協賛企業から寄付され、アフリカ・アジアの子どもたちに給食が5食届く「おにぎりアクション2019」に本校も参加をしています。この企画は、世界の食料問題を考える日として国連が制定した10月16日の「世界食料デー」を記念したもので、今年で5年目を迎えます。企画を実施している TABLE FOR TWO は、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動です。

この機会に、安全でおいしい食事ができることへの感謝の気持ちや世界の子どもたちの幸せを願う気持ちをこめて、おにぎりを握ってみましょう。

596-テ 『主役は、ごちそうおにぎり』 Tesshi ‖ 著 KADOKAWA

おにぎりの具といえば、ごはんの真ん中に入っているイメージですが、このおにぎりのレシピ本に載っているおにぎりの具は、なんと、ごはんを大胆に飛び出しています。お米より具の方が多いのではないかと思う見た目は、食べる人の食欲をかきたててくれます。使っている具材も、単に鮭、たらこ、梅干し、と単体で入れるのではなく、鮭と天かす、たらこと高菜、梅干しとチーズおかか、というように組み合わせて使うことで、食べ応えがあり、より魅力的な味のおにぎりが生み出されています。

簡単に食べられて、お腹も満たされるので、時間がない時の食事としてもおすすめです。

おにぎりアクション 2019 を通して、世界の食料問題に関心を持った人には
383-メ 『地球の食卓』 ピーター・メンツェル ‖ 著 TOTO出版
612-ヤ 『史上最強 カラー図解 世界の農業と食糧問題のすべてがわかる本』 ナツメ社
もおすすめ！！

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

この部分を書きあげるのに時間がなくて、いったい何時までなら大丈夫かを確認したら、昼まででした。想定よりも早い締め切り時間にしばし茫然。そういえば今月読んだ本の中で、それって結局朝の終わりってことだから昼ってことじゃないかと、話題になったのが**『マチネの終わりに』(913.6-ヒ 平野啓一郎 ‖ 著 毎日新聞出版)**でした。舞台などの公演で昼の部をマチネ夜の部をソワレと呼ぶのは知っていたのですが、それがフランス語からきていることは知りませんでした。フランス語でマチネは朝・午前のこと、ソワレは夕方日が暮れてからの時間だそうです。だからと言って題名を『昼に』とするとロマンチックではないですよね？ 内容としては、マチネを昼公演の意でとらえて正解に思えますが、色々と意味を含ませているようにも感じました。その後訪れる、人生の最高潮の時間帯の“昼”だったり、再び幕が開く夜公演への期待だったり、それは終焉ではなく次の始まりを予感させる、余韻の味わえる物語でした。【鈴木】

⭐先生がプロデュース!!今月の展示⭐

今月の展示は…、 **白石士門 先生** がプロデュースです☺

展示のテーマは…、**【 常 識 】**です。

歴史を学んでいると、現代の常識でははかることができない行動をとる人々との出会いがあります。21 世紀初頭の日本列島に生きているにすぎない我々の常識は、たとえば古代のギリシャやローマの社会で通用するでしょうか。1000年前の中国で通用するでしょうか。日本でも、鎌倉時代の人々に通用するでしょうか。実際には、昭和生まれの父母など家族ですら、高校生の皆さんとは違った常識・価値の尺度を持っていることでしょう。それが何百年も前の、しかも外国ともなればなおさらです。

我々のもっている価値観で歴史の善悪を断ずることは簡単かもしれません。しかし、歴史上の人々は自分たち自身の常識・価値観を持ち、それに則って行動してきました。後世に生きる我々としては、それらを客観的に、あるがまま理解することが大事です。そして、それらを我々自身のもつ価値観に寄せるのと同じだけの敬意をもって、眺めてみることが重要だと感じます。そんなわけで、「21世紀の日本」からは想像もつかないような社会を描いた本たちを集めてみました。

◆展示本リスト◆

290-フ-5 『文化の世界地図』 藤田 千枝 ‖ 編 坂口 美佳子 ‖ 著 大月書店

230.4-ア 『西洋中世の男と女』 阿部 謹也 ‖ 著 筑摩書房
→キリスト教以前・以降の男女観を概説する本です。西洋の価値観の根底を伺えます。

367.4-デ 『中世の結婚 騎士・女性・司祭』 ジョルジュ・デュビー ‖ 著 新評論

383.9-デ 『寝室の文化史』 パスカル・ディビ』 青土社

383-ア 『図説 不潔の歴史』 キャスリン・アシェンバーグ ‖ 著 原書房
→20 世紀になるまで、人々はあまり体を洗いませんでした。「清潔」は前近代の非常識! 目次を抜粋すると…「風呂の入り方がわからない」、「衛生という名の信仰」

230-キ 『本当にこわい宮廷の物語』 桐生 操 ‖ 著 中央公論新社

382-イ 『図説 英国レディの世界』 岩田 託子/川端 有子 ‖ 著 河出書房新社

383-ペ 『ファッションの歴史』 ブランシュ・ペイン ‖ 著 八坂書房
→西洋ファッションの変遷を図版で追えます。美術館で絵画を見る目が変わるかも?

383-ヤ 『化粧の日本史』 山村 博美 ‖ 著 吉川弘文館

389-イ 『リャマとアルパカ』 稲村 哲也 ‖ 著 花伝社
→アンデス地域のリャマとアルパカの牧畜文化について詳説します。目からウロコ。

この中でも、いちおしなのは…

230-キ 『本当はこわい宮廷の物語』 桐生 操 ‖ 著

フランスをはじめとした宮廷文化を、王妃や寵姫のおもしろおかしい強烈なエピソードとともに語ります。すべては紹介できませんが…フランスの「公開出産」、「胎児管理人」等々、パワーワードが並びます。「えっ何それ!?」と思ったら、ぜひ読んで確かめてみてください。

本で振り返る平成の30年

さて、今回は平成14年(2002年)から時代と本を振り返っていきましょう。この年、日本ではノーベル物理学賞を小柴昌俊(物理学者)さんが、ノーベル化学賞を田中耕一(科学技術者)さんが受賞しました。日本人の動燃ダブル受賞は初めてのことで、この吉報は大きなニュースとなりました。

この年のベストセラー(トーハン調べ)の第1位は、**『ハリー・ポッター』シリーズの1～4巻**です。続いて、第2位には、**『ビッグ・ファット・キャットの世界一簡単な英語の本』**が入りました。この本は、英語そのものの仕組みを理解し使えるようになる新しいタイプの入門書として評判を呼びました。第4位の**『世界がもし100人の村だったら』**(池田香代子 ‖ 再話 マガジンハウス)は、世界の人口を100人に縮め、想像しやすい数字にすることで、世界の様々な現状に人びとが目を向けるきっかけを作った本です。

平成15年(2003年)は、宮崎駿監督の『千と千尋の神隠し』が第 75 回アカデミー賞長編アニメ映画賞を受賞しました。興行収入は300億円を超え、日本歴代興行収入第1位を記録しました。この記録は現在も塗り替えられていません。この年のベストセラー第1位は、解剖学者 養老孟子さんの**『バカの壁』**です。人間ひとりひとりが何かを理解しようとする時にぶつかる壁を、様々な角度から考えるためのヒントが書かれており、「バカの壁」という言葉が2003年の新語・流行語大賞も受賞にも選ばれるほど、話題となりました。第2位は片山恭一さんの小説**『世界の中心で、愛を叫ぶ』**です。切ない恋愛が描かれた本書は映画化も大ヒットし、「セカチュー」という言葉も生まれました。みなさん世代は「セカチュー」知っているでしょうか。

835-ム 『ビッグ・ファット・キャットの世界一簡単な英語の本』
向山 淳子/ 向山 貴彦 ‖ 著 幻冬舎

英語=難しい、というイメージを私たちは持ってしまいがちですが、この本のはじまりには、こんな一言が書いてあります。「難しい言語だったら、こんなに世界中に広がるはずはありません。簡単だからこそ、こんなに普及したのです」 これまで英語を苦手としていた人も、この言葉を励みに英語を学ぶための土台作りをしてみませんか。英語を勉強する上で大切なのは、文法のルールを覚えること。そこにポイントを絞って、この本のマスコットキャラであるビッグ・ファット・キャットと一緒に英文法の仕組みを準備編、練習編、実践編と細かく、丁寧に、覚えていきましょう。

913.6-カ 『世界の中心で、愛をさけぶ』 片山 恭一 ‖ 著 小学館

『朝、目が覚めると泣いていた』

心にズシリと響く一言から、朔太郎とアキの物語は始まります。大切な人と過ごした過去の日々と、その大切な人を亡くした今。ふたつの時間を交互に描かれていることで、ふたりが過ごした何気ない日常がどれだけ幸せなものだったのか、アキのいない世界に残された朔太郎の深い喪失感がどれほどのものなのかが、より鮮明に伝わってきます。「助けてください」と叫んでも、願っても、変わってはくれない残酷な現実に彼らは何を思い、どんな答えを見つけるのでしょうか。